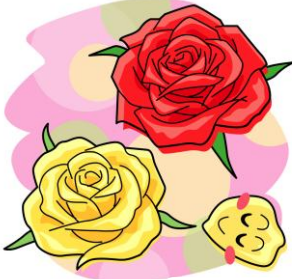
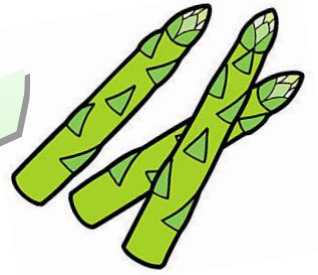


普及センター

もいおが



第120号平成24年5月23日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6726 FAX 019-629-6739

《赤沢営農組合が若い女性達にトラクター操作を指導》

このたび、紫波町の赤沢営農組合（伊藤守組合長）では、地域で農業に従事する若い女性を対象に農業機械の操作方法などを教える研修会を開催しました。集まったのは赤沢地区や佐比内地区などの農家の娘さんやお嫁さん達。機械メーカーや営農組合の組合員が所有するトラクター4台に乗って、水が張られた田んぼの耕起作業を行いました。今回初めて操作するという女性達がほとんどでしたが、トラクターにはそれぞれ一人ずつ指導者がつき、マンツーマンで操作方法を学んでいました。

この研修会を企画するきっかけは、地区の農家のお嫁さんから「女の人たちも機械を扱いたい」との声があがったことから。伊藤組合長は、「家ではなかなか教わる機会がないので、今回実際に操作して自信がついたのではないかと、若い女性達のがんばりを組合をあげて応援しています。

次回は田植え作業、秋にはコンバインによる収穫作業も予定されており、後継者育成に期待が寄せられています。



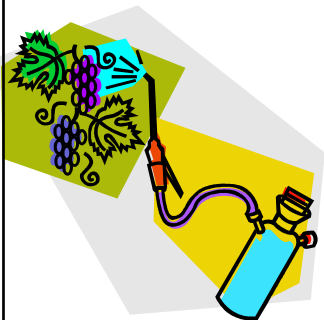
組合役員がマンツーマンで操作を指導



木村主任農普が農作業安全について説明

農薬はラベルを
よく読んで
正しく使いましょう！

使用履歴の記帳も忘れずに！

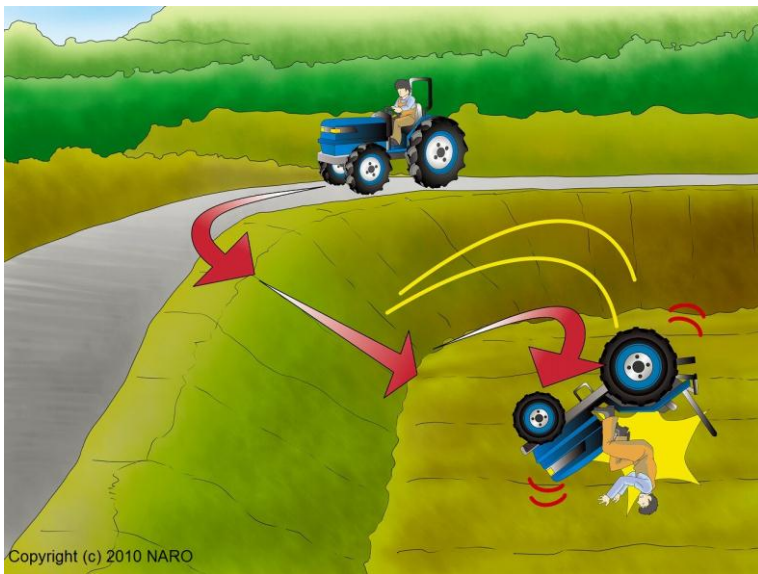


ストップ！！農作業事故

過去5年間の農作業死亡事故の発生件数は、岩手県で73件、盛岡農業改良普及センター管内（盛岡市、雫石町、滝沢村、紫波町、矢巾町）では10件で、トラクタの転倒、ロータリへの巻き込み等、機械が関係したものが多くなっています。

事故防止のためには、常日頃から危険について意識することが重要です！

◇こんな事故がありました。（農作業安全情報センターHPより引用）



概要

乗用型トラクタで水田を見回りに行く途中、ゆるい下り坂（コンクリート路面）で直角のカーブを左折時にブレーキを踏んだところ、左右独立のブレーキペダルを連結していなかったため、片ブレーキになって急旋回し水田に転落した。

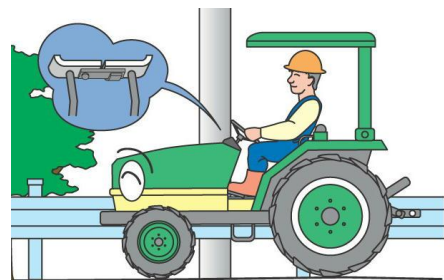
シートベルトを装着していなかったため、傾斜45度で長さ3.6mの法面で投げ出され、後から落ちてきたトラクタで腰を打撲し13日間入院した。幸い安全フレームが付いていたため完全には下敷きにならずにすんだ。

原因

道路走行時に左右独立のブレーキペダルの連結をすることは農協などで充分注意を受け知っていたが、15km/hくらいで走行するときは問題ないと思って油断していた。

◇対策について考えてみましょう。

- ①危険箇所を日頃から意識しておく。（きついカーブや落差等）
- ②道路走行中は、左右のブレーキペダルを連結する。➡
- ③安全フレームを装着する。
- ④シートベルトを着用する。（付帯している機械の場合）
- ⑤慣れと油断は禁物！



万が一に備えて、労災保険に加入しましょう。

農業者は次の3つの区分のいずれかに加入することができます。

- A 特定農作業従事者：年間の販売額が300万円以上、または耕地面積2ha以上の規模で、指定された農作業に従事している方
- B 指定農業機械作業従事者：自営農業者（兼業農家を含む）で、指定された機械を使用し農作業を行う方
- C 中小事業主：常時300人以下の労働者を使用（年間100日以上）する事業者本人及びその家族従事者（法人の場合は代表者以外の役員）で、指定された条件を満たしている方

詳細については、最寄りのJAにお問い合わせください。

JAいわて中央 営農販売部営農企画課（電話019-676-3218）

JA新しいわて 営農経済部営農企画課（電話019-699-3348）

東部営農経済センター（電話0195-61-2511）南部営農経済センター（電話019-692-3380）